

病理診断科 (病理部)

正確な病理診断により診療に貢献

病理医は手術検体や迅速検体の切り出しを行い、出来上がった標本を鏡検し、病理診断書を作製します。病理診断は多数の疾患で最終診断となります。そのため病理診断には重い責任が伴います。病理診断科では全身の様々な疾患について接し学ぶ機会が得られ、その診断を自らが行うことにより、疾患についての深い理解が得られます。

〈研修目標〉

2年次2ヶ月以上の研修により、外科病理学の基本的知識、技術を習得します。将来病理医を志す者は、研修により病理診断学の基礎を習得するとともに、継続して病理診断科(病理部)あるいは基盤系病理学講座で病理診断学、病理解剖学を学ぶことにより、死体解剖資格の取得が可能であり、病理専門医及び日本臨床細胞学会細胞診指導医の受験資格を得ることができます。



指導医の声

指導医 星井 嘉信

病理医は全国的に不足しており、このままではいずれ医療全体にも影響が及ぶことが予想され、病理診断科希望者は大変貴重な存在です。本学病理診断科では幅広く様々な症例を経験することが可能です。まずは病理診断科(病理部)で研修をしてみませんか?歓迎します。

1週間のスケジュール

Mon	指導医とのディスカッション 日常業務(病理標本の鏡検、 術中迅速診断、手術材料の切り出しなど)
Tue	日常業務
Wed	指導医とのディスカッション 日常業務
Thu	日常業務
Fri	日常業務

病理解剖・剖検会・病院CPCに
参加します。
当直体制はとりません。